

校種・教科名・科目名(単位数)・実施学年	普通科・総合スポーツ（2単位）・3学年
学習到達目標	
球技の特性についての理解と課題の解決を目指した計画的な運動の実践を通して、これからのスポーツの高度な技能と審判法を習得できるようにするとともに、技能を發揮してゲームをすることができる資質や能力を育てる。	

運動領域	種目・内容	学習のねらい
球技	バスケットボール	<p>○ゴールへのシュートを競い合うゲームの特性と技能の構造を理解し、既習の集団的技能や個人的技能をゲームに十分活用できるようにする。</p> <p>ゲームでは、作戦の立て方、審判法、ゲームの運営の仕方を取り扱うことができるようにする。</p> <p>集団的技能は、速攻、セットオフense、マンツーマンディフェンス、ゾーンディフェンスを取り上げ、ゲームにおける具体的な攻防の場面を想定しながら、互いに協力して、攻防に有利な働きを身につけることができるようにする。また、特に、攻防の切り替え場面の展開の仕方を取り扱うようにする。</p>
	ハンドボール	<p>○ゴール型のゲームの特性を理解して、攻撃から防御への連係プレーをゲームで生かすようにする。</p> <p>ゲームでは集団的技能や個人的技能を活用して、チームの特性を生かすようにする。</p> <p>集団的技能は、攻撃の技能としての速攻や、セットオフense、防御の技能としてマンツーマンディフェンス、ゾーンディフェンス、ゴールキーパーとの連携プレーなどを、攻防の競り合いの中で組織的に活用できるようにする。</p>
	サッカー	<p>○主として足を用いてボールを運び得点を競い合うゴール型のゲームの特性と技能の構造を理解し、既習の集団的技能や個人的技能をゲームで生かすことができるようにする。</p> <p>ゲームでは、作戦の立て方、審判法、ゲームの運営の仕方を取り扱うことができるようにする。メンバーのポジションや特性を生かした攻防の作戦を工夫して、組織的なゲームができるようにする。</p> <p>集団的技能ではショートパスやロングパスを用いたオープン攻撃や中央突破の攻撃、スリーバック型やフォーバック型の防御などの技能を実践の場面を想定しながら身につけることができるようにする。また、特に攻防の切り替え場面の展開の仕方を取り扱うようにする。</p>
	バレーボール	<p>○バレーボールではネットをはさんで打ち合うネット型のゲームの特性を理解し、チームの特性を生かした攻撃と防御の連携プレーをゲームで發揮できるようにする。</p> <p>ゲームにおいては相手に対応した作戦を考え、正確なパス、トス、高い打点の力強いスパイク、ブロック及びレシーブなどの個人的技能を速い攻撃や時間差攻撃などの多彩な連係プレーとして組み立てることができるようにする。</p>
	テニス	<p>○テニスでは、ラケットでボールを打ち合うネット型のゲームの特性を理解し、グランドストロークを中心としてボレー、スマッシュ、ロビング、サービス、レシーブなどの技能を高め、相手の動きや打球に対応して作戦を考えたゲームができるようにする。また、ダブルスでは、パートナーとの攻防の連携パターンを工夫して、ゲームを有利に展開することができるようにする。</p>
	バドミントン	<p>○バドミントンでは、ラケットでシャトルを打ち合うネット型のゲームの特性を理解し、オーバーヘッドストロークを中心として、ハイクリア、ドロップ、ドライブ、スマッシュ、ヘアピンなどのフライトを使い分けて、相手の動きやフライトに対応して作戦を考えたゲームができるようにする。また、ダブルスではパートナーと攻防の連携パターンを工夫して、ゲームを有利に展開することができるようにする。</p>

ソフトボール	<p>○ソフトボールでは、野球型のゲームの特性を理解し、ゲームでは集団的技能や個人的技能を生かした組織的なプレーができるようにする。</p> <p>集団的技能は、チームの特長を生かして作戦を立て、具体的な実践の場面を想定しながら協力して攻撃や防御ができるようにする。</p> <p>個人的技能は、投球、捕球、打撃、走塁などの技能の向上を図ることができるようにする。</p>
卓球	<p>○卓球では、テーブルをはさみ、ラケットでボールを打ち合うネット型のゲームの特性を理解し、ロング、ショート、カットなどの打法、サービス、レシーブなどの技能を高め、相手の動きや打球に対して作戦を考えたゲームができるようにする。また、ダブルスではパートナーの特徴を生かした攻撃と防御の連携パターンを工夫して、ゲームを有利に展開することができるようにする。</p>
野球	<p>○野球では、野球型のゲームの特性を理解し、ゲームでは、集団的技能や個人的技能を生かした組織的なプレーができるようにする。</p> <p>集団的技能は、チームの特長を生かして作戦を立て、具体的な実践の場面を想定しながら協力して攻撃や防御ができるようにする。</p> <p>個人的技能は、投球、捕球、打撃、走塁などの技能の向上を図ることができるようにする。</p>

評価の観点・方法		評価方法
関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ・運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう自ら進んで計画的に運動しようとしているか。 ・公正、協力、責任などの社会的態度が身についているか。 ・健康や安全に留意して運動しようとしているか。 	
思考・判断	<ul style="list-style-type: none"> ・自己やグループの能力と運動の特性に応じた課題を見つけ出しているか。 ・課題解決をめざして、活動の仕方を考え工夫しているか。 	
運動の技能	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の能力と運動の特性に応じた課題解決をめざして運動を行い技能を高めているか。 ・自己の体力や生活に応じて体力を高めるための運動の行い方を身につけているか。 	
知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> ・運動技術のしくみと運動の学び方について理解できているか。 	